

作業工程の工夫+補助具の開発

〔空き缶のリサイクル〕 ①作業目標や作業量を分かりやすくする工程分析 ②易しく安全に作業できる補助具の工夫

授業改善の視点

◆ 授業のたびに先生から、カゴにたくさん入れられた空き缶を渡されるけれど、自分はどのくらいやればいいのか、どれだけやったのか…。分からないな…。



【Aさん】

◆ Aさんは、作業学習に意欲的に取り組めていないみたい。しっかりとした目標をもたせたいけれど、どうしたらいいのかな。



【担任のB先生】

新たな作業工程の工夫

◆ Aさんが、目標をもって作業に取り組めるように、
① 空き缶を10個ずつ箱に入れて分ける
② 一箱終わるごとにマークをする
という工程を設定しました。

①



②



★ また、機械の投入口にガイドを作りました。目立つように黄色にしました。
★ 誰もが、易しく安全に作業ができるようになりました。



専門家からのアドバイス

★ 一人一人の理解力に合わせて、目標(どのくらいやるのか)や結果(どれだけやったのか)を分かりやすく示すことが大事です。
例えば、①空き缶を10個ずつ一箱に入れて自分で取る。
②一箱が終わったら自分でマークをする。
など、生徒の力に応じた「一人でできる工程」を工夫・開発してはどうでしょうか。

「一人でできる」ようにするための更なる工夫



【専門家】

★ 空き缶の投入口をもっと大きくすると、どの生徒でも、もっと易しく安全に作業ができるようになるでしょう。
★ つぶした缶が見えるように、生徒の立つ位置を工夫しましょう。
・ その際、生徒の利き手と反対側に机を置くと、体幹が安定して楽な姿勢で作業ができるようになりますよ。

生徒が「一人でできる」ようになった姿

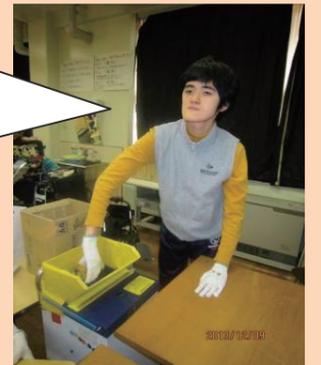
【Aさん】



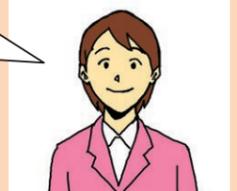
★ 「いくつやるのか」「いくつやったか」が分かりやすくなりました。
★ 目標があるので、作業学習が楽しみになりました。

【実際のAさんの様子】

・ 作業の目標や結果を分かりやすく示すようにしたことで、見通しをもって作業に取り組めるようになりました。
・ 機械に空き缶の投入口を設けたことで、空き缶を入れやすくなり、易しく安全に作業できるようになりました。
・ Aさんの立つ位置や、机の配置を工夫したことにより、安定した姿勢で作業できるようになりました。



★ 少しの工夫で、目標や見通しをもって学習に取り組めるようになったり、作業がしやすくなったり…。そのことが、生徒の作業意欲を引き出すことになりました。



作業工程の工夫+補助具の開発

〔ペットボトルキャップの回収〕 ①作業の目的を分かりやすくする工程分析 ②自分でできることを増やすための補助具の工夫 授業改善の視点

【Bさん】



- ◆ キャップを回収してきたけれど、何個あるかわからないな
- ◆ かごに移し変えるのは難しいな。先生に手伝ってもらわなければならないのかな。
- ◆ ペットボトルのキャップを集めると誰かが喜んでくれるのかな。

◆ Bさんは、自分でできそうなことも、教員に頼ってしまいます。意欲的に作業学習に参加できるように、何のためにキャップを回収するのか理解してもらうにはどうしたらいいのでしょうか。



【担任のC先生】

※ ペットボトルのキャップは、発展途上国にワクチンを寄付するために回収しています。

専門家からのアドバイス

★ 作業に意欲的に取り組むためには、目的(なんのために、どんな役に立つか)を分かりやすく示すことが大事です。
例えば、①ペットボトルキャップ何個でワクチンを寄付できる。
②これまでの作業学習の中で何個集めたのかが分かる。
など、作業種に応じた「目的・目標」をグラフにしてはどうでしょうか。



【専門家】

「一人でできる」ようにするための更なる工夫

- ・ 中が見える入れ物にして、どのくらい集まったか視覚的に分かるようにしましょう。回収BOXとして、「これだけ集めました」と報告時にも使えますね。
- ・ 介助者が手伝っている場面が多いので、生徒が行えるよう補助具の工夫をしましょう。

新たな作業工程の工夫

- ① 回収した数をグラフにし、ワクチンを寄付できる数に達した場合にスマイルマークを貼りました。
- ② ペットボトルを回収BOXに使い、おおよそ何個回収できたかが一目で分かるように、目盛りをつけました。



②



①



③

③Bさんが「自分で」できるように、キャップを回収BOXに自分の力で入れられるよう補助具を工夫しました。

生徒が「一人でできる」ようになった姿

- ・ 取っ手を付けたことで、生徒がテーブルまで自分の力で持ち上げ、回収できるようになりました。
- ・ BOXに自分で入れられるように工夫したことで、どのように手腕を動かせばよいか、生徒自身が考えて作業するようになりました。
- ・ おおよその数が分かるように回収BOXを工夫して、その日の回収数をグラフにすることで、「何人分のワクチンが寄付できたか」が視覚的に分かるようになりました。



◆ 目的をもって作業に取り組めるようにするとともに、補助具を工夫し、自分でできることを増やすことで生徒の意欲を引き出すことができることが分かりました。

